

第4回笠岡市総合計画審議会議事要点録

- 日 時：平成29年5月31日（水）13：30～16：10
- 場 所：中央公民館4階集会室
- 出席委員：17名
小林会長，大嶋副会長，浅野委員，遠藤委員，大山委員，藏本委員，齋藤（永）委員，齋藤（一）委員，谷川委員，玉置委員，鳴本委員，野本委員，長谷川委員，原田委員，東山委員，水野委員，三谷委員
- 欠席委員：1名（西村委員）
- 内 容：下記のとおり

1 議 事

■協議事項に入る前に，基本計画案の36施策について，今回を含めた3回の審議会で分けて審議いただく旨を諮り，了承を得た。

■協議事項（1）第7次笠岡市総合計画の基本計画案について
資料に基づき，基本計画案について事務局から説明した後に質疑応答。

<委員意見の要旨>

「3-2 学校教育の充実」

委員：総合計画はある程度ぼやっと書くもの。どういう狙いでこういう表現にしたか。

教育部長：素案としてお示ししている。書きぶりも含めてご審議いただきたい。小中一貫校の設立は大きな問題であり，今後関係者と協議するための素案としてもここにお示しした。

委員：一貫校の設立は全国的な流行であり，それに乗って市長の政策として出されていると思うが，教員免許は小学校と中学校で分かれている。中身が追いつかないのでは。また，設置されない学区の保護者からの苦情は出ないか。

教育部長：関係者の方が不安に思われるのは本意ではない。小中一貫校の設立については，様々な課題も含めて，市としてどこにどういう順番で設立する，コンセプトはこうだということから，皆様方のご意見をお伺いする中で大きな計画を作ったもの。その計画についてご意見があれば，もちろん伺っていく。

委員：小中一貫校については，総合教育会議で委員と市長とで議論しているが，まだいろんな方に意見を聞く必要があり，結論は出ていない。こういった総合計画にも載る

問題であるので耳に目に留めていただき、意見をいただければと思う。

委員：まず総合計画に載せてからP T Aに説明という、小中一貫校ありきの計画では、実施が困難になるのでは。

教育部長：P T Aの皆様はまだお示しできていないことは反省している。今週の土曜日にP T A役員会でご説明する予定。今後は学校規模適正化の際のやり方を踏襲したい。

委員：小中一貫校に関連して、中1ギャップの取組についても、1文加えていただけないか。

委員：以前市長は、英才教育を求めた小中一貫校の設立を言っていたが、この内容は少子化に向けて合理化していく小中一貫校なのか。だとすると、「少子化に向けた上での合理的な施策として」等の文言がいるのではないか。

教育部長：学校規模適正化について「将来の状況を見据えながら」という文言を入れているが、これから小中一貫校を検討していく中で、さらにお示しできればと思う。

委員：中1ギャップの状況を。

学校教育課：中1ギャップを示す指標はいろいろ考えられるが、不登校かどうかという視点で見ると、27年度の小6が1名で28年度の中1も1名と変化はなく、他に長期休暇の生徒の状況を見ても家庭の事情による増加のみ。

「3-1 子ども・子育て環境の整備」

委員：「電子母子手帳」とは？「母親クラブ」等、市民が地域でしている子育て支援団体名をどこかに入れていただけたら。

子育て支援課：今までの母子手帳は紙面で発行していて、予防接種については医療機関で記載していた。これにより接種忘れが出てきているため、情報発信をしていくというイメージで、民間で開発しているものを検討している。

こども部長：具体的な団体名については、実施計画に記載したい。

委員：就学前の子どもに限定した環境整備の記載になっている。学童保育等の取組もやっており、中学生までもカバーするような施策の方針としてやっていくべきでは。

こども部長：ご指摘のとおり、現在も高校生までを対象にいろいろな取り組みをやっている状況である。

委員：ある程度の表現は入れておくべきでは？

副市長：全体を通じて言えることだが、総合計画は市の今後10年を見据えた骨太の方針という考えもあるが、もう1つ国や県の補助事業をとっていくという側面もあるので、幅広に読めるようにしていく。

委員：認定こども園の政策はあるか。幼稚園の延長保育の要望も多いが、今の状況を教

えて欲しい。

こども部長：延長保育は待機児童の解消という意義があり、待機児童が発生していない状況で難しい面がある。また、認定こども園についても視野に入れて進めている。

委員：障がいを持つ子どもの家庭支援・親支援について手厚く、明確に書いていただきたい。

委員：「4-4 障がい者・障がい児福祉の充実」の項目に入れれば良いのでは。

「3-3 生涯学習の推進」

意見なし

「3-4 スポーツの振興」

委員：市営プールを修繕せずにグラウンドゴルフ場にすると聞いたが。

スポーツ推進課：50mプールは高梁川以西では笠岡市しか持っていない良い施設ではあるが、維持修繕費用と利用率を勘案すると低いもの。跡地利用の関係でグラウンドゴルフの名前が出たが、多目的広場として様々な用途にいろいろな人が利用できる施設にしたい。

委員：市営プールがなくなると、白石のB&Gだけになる。

スポーツ推進課：市営プールは、50mプールの隣にある25mプールと幼児プールは存続する。B&Gは島の子どものための学校プールでもあるので、今後も続けていきたい。

委員：小学校が閉鎖になったとき、残ったプールを活用できれば良い。

教育部長：プールだけでなく、跡地の活用については課題。地域の皆様の声をお聞きしながら有効に活用したい

「3-5 歴史の継承・文化の振興・カブトガニの保護と活用」

委員：既存のものの振興だけでなく、今の若い人たちの文化を支える取り組みは。

教育部長：伝統芸能はなかなか若者が担うのは難しいが、若者文化の振興も大事。生涯学習フェスティバルに高校生達に参加していただいている。今後も振興していきたい。

会長：竹喬美術館の収蔵庫はいっぱいになっていると聞いたが。

生涯学習課：岡山のトランクルームを一時的に借りている。新収蔵庫の建設に向けた計画を立てていきたい。

「3-6 人権・男女共同参画・平和」

会長：ネットなどの人権についてあまり書かれていない。

市民生活部長：計画の中にも書いていきたい。

「2-4 利用しやすい公共交通システムの構築」

委員：既存の公共交通の利用度を高める取組を書き込んでいただきたい。

政策部長：福山・笠岡の網形成計画では利用意識の醸成等の取組も掲げている。その辺りを少し追記できないか検討していく。

「2-5 身近な上水道」

委員：広域化の取組も記載した方が良いのでは。

水道課：達成目標2に記載はしているが、表現等足りなければ追記を検討していく。

委員：水道料金の値下げについて、記載が「料金の適正化」としか書かれていない。それならば、公共料金全体の見直しとして別の施策で書いたほうが良いのでは。

総務部長：行政改革の手法の1つとして考えており、公共料金だけで1つの施策にする考えはない。

委員：水道料を300円値下げして、また数年して値上げするくらいなら、もう下げなくて良いという声を聞く。値下げについて具体的な記載はないが、検討中ということか。

上下水道部長：300円の値下げについては、議会で継続審議中。水道ビジョンを現在策定中で、計画中に収支計画も入れている。

「2-6 離島振興」

委員：一般の船の係留場所が不足している。民間の人に自由に栈橋をつくらせてあげる対策をとるなど、公共交通の乗り場だけでなく、地元の人利用できる施設の整備を進めていく必要がある。

建設部長：これまでは生活のための漁港・港湾施設として整備してきたが、今後は離島振興・観光振興の面からも条件整備する必要がある。

委員：今ある施設の利用度を上げる規制緩和の取組も書けばよい。また、離島振興の基盤である島の収益を上げることについても書いて欲しい。

「2-7 市民参画・協働の推進」

委員：協働のまちづくりについて、今後の方向性を書くべき。地域でも計画を作り、総合計画とリンクさせる必要がある。

政策部長：協働のまちづくりの取組も5年が経過し、第2段階に入るような働きかけをしていきたいと考えており、「地域の特色を生かしたまちづくり計画の策定を目指す」と記載している。

委員：まちづくり協議会の法人化を促すように行政として取り組んでいく旨を書きこんで欲しい。また、協議会同士の情報をホームページ等で可視化することで、情報交換できるような基盤整備を進める文言を入れて欲しい。

政策部長：法人化は協議会によって状況が異なるため、できるところはしていけばいいし、そういうところは支援していきたい。HPは既に作っているところもあるので書きぶりも検討したい。

「2-8 多様な交流の促進」

意見なし

「2-9 広域連携の推進」

委員：公共施設の統合等について書き込んでどうか。また、域学連携について、大学から単位が取れるようなプログラムを組んで欲しいとの要望があるが。

政策部長：追記を検討する。

企画政策課：昨年度から「岡山を学ぶ」という1コマができており、更に今年度からは実際に学生が地域に出て行く「地域演習」も行う予定なので、単位に直結していると思われるが確認する。

委員：広域観光ルートに笠岡諸島を設定するなど、具体的な記載をしても良いのではないかと。

企画政策課：備後と高梁川の両圏域に属する笠岡市としては、大きな人口の真ん中にあるという意識を持って追記を検討する。